

A I R

～地域社会の空気調和～

八代研究室

00612132 中山 拓弥

1. はじめに

少子高齢化が深刻な現在、私の地元である東京都北区でも高齢化が進行し、世代間の結び付きが希薄になり大きな問題となっている。今回はこうした地域社会のA I R（雰囲気）を攪拌、調和したいと考え、多世代と新たな交流を可能にする高齢者保健施設の提案を行う。

2. 敷地（図1）

- ・計画地：東京都北区豊島3丁目7番地
- ・敷地面積：約4000㎡（空き地：約1280㎡）
街の中にぽっかりと空いたエアポケットのような空き地とその周りを含んだ敷地である。この空き地は公園になっており地域住民の集まる場所になっているが、入り口が一ヶ所しか無く閉鎖的になっている問題点がある。

3. 設計主旨

歩行者が通り抜けやすくし、敷地にフィルタ（装置）を設置することにより地域のA I R（雰囲気）を変える。

・フィルタⅠ～路地～（図2）

住宅地の路地空間に囲まれた敷地のため、路地空間を取り込み毛細血管のように地域と一体化した施設を提案する。

・フィルタⅡ～溜まり場～（図3）

路地空間を拡張させ、様々な性格を持った溜まり場を敷地内外に点在させる。この溜まり場は既存の空き地と同じ面積を分散させる。

・フィルタⅢ～視線～（図4）

路地の先をあえて見せない配置計画にすることにより、何があるかわからない楽しさや期待感を生み出す。

・フィルタⅣ～内・外～（図5）

本来フィルタとは内と外の間であり、A I Rを

換える役割を果たしている。同じように敷地の内部と外部の間に緩衝空間を配置し、そこを入り口にすることで雰囲気を変える。

4. 計画内容

1階（図6）は町並みを取り込んだ路地空間になっている。歩いている人がそのまま敷地に入っていくような配置計画にした。路地が拡張した溜まり場、その周りにカフェ、ギャラリースペース、図書室、集会室を点在させ、子供の学校帰りや高齢者の散歩、商店街での買い物途中など様々な場面で立ち寄ることができる空間を計画し敷地を活性化させる。デイサービス利用者はデイルームから溜まり場を望むことができる。溜まり場に対して開けたデイルームを提案した。また外に出て散歩や、日陰で休んで地域住民との交流ができ、閉鎖的な機能を持たせず地域と一体化した施設として提案した。

2階（図7）は入所者の療養スペースになっている。入所者が利用する機能を2階に集めることにより、わかりやすく、職員も働きやすい空間を提案した。療養室は全室個室でトイレ、洗面台、シャワーが設置されている。全ての部屋に溜まり場に面したバルコニーがあり、そこから溜まり場を望むことができる開放的な空間となっている。また、施設内外の階段やエレベーターからすぐに溜まり場へ出ることができるため、地域住民との交流が可能である。

3階（図8）は屋上広場になっている。外部からも階段で上がり広場を回遊することができる。

5. まとめ

本設計は高齢化社会について自分なりの答えを求めた結果である。空気調和を概念的に捉え、4つのフィルタを用いた施設を提案することで街のA I R（雰囲気）の攪拌、調和を試みた。地域の結び付きが充実した社会がこれからも続いて欲しいと願う。

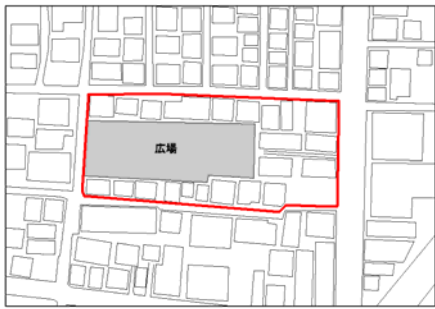


図1 敷地図



図2 フィルタI ~路地~

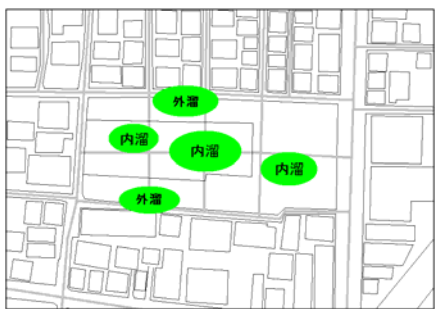


図3 フィルタII ~溜まり場~

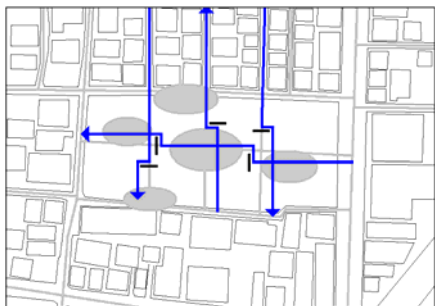


図4 フィルタIII ~視線~



図5 フィルタIV ~内・外~



図6 1階平面図

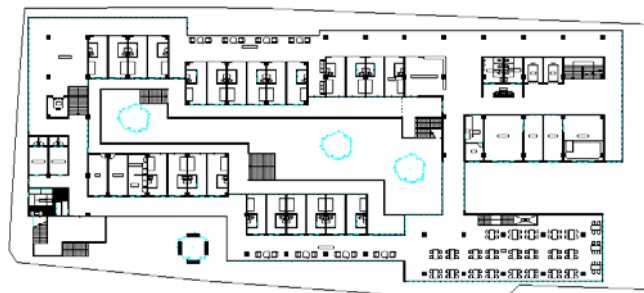


図7 2階平面図

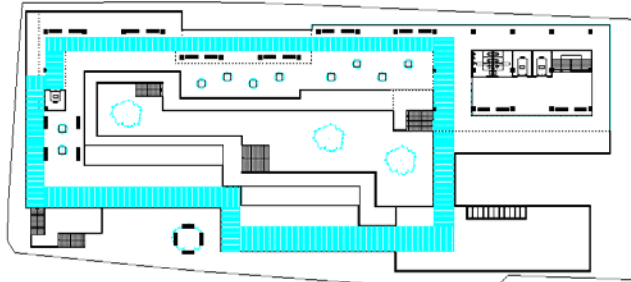


図8 3階平面図



図9 断面図



図10 模型写真